

新たにB中学校（仮称）を現在の佐織西中学校に配置する

<八開地区検討協議会内での対案>

① 現状のまま残す

※検討協議会で発案…不採択

【理由】

- ・子育てし難い八開地区になってほしくないので、現在の学校を生かして何とかしてほしい
- ・地域の過疎化の問題
- ・子どもの気持ちが不安定にならないか心配 不安を受け止められる対策
- ・通学時間、距離、防犯、安全面の整備
- ・避難所 防災の拠点が無くなる
- ・少人数、縦割りを生かした教育

② 佐織西中学校を2つに分け、八開中学校と佐織中学校の位置に2校配置

【利点】

- ・通学距離が平等

【課題】

- ・佐織地区及び八開地区検討協議会で検討が必要
- ・適正規模の佐織西中学校を2つに分けることに校区市民の理解が得られるか。
- ・2校の整備にかかる費用が必要
- ・将来、適正規模の観点から北部の学校を1校とする場合、どちらの学校に配置しても通学距離が6 km を大きく超える地域ができる。
- ・立田北部小の全部もしくは一部を統合する場合に、検討が必要
- ・佐織西中学校を2つに分ける利点が不明瞭

<八開地区保護者アンケートの対案（地区検討協議会対案を除く）>

① 八開地区での小中一貫校

※検討協議会で、「小中一貫校は、それぞれに検討するのではなく、市全体で検討すべき」との発言

【利点】

- ・八開地区に小学校と中学校を残すことができる。
- ・教員数が増え、独自の学校運営が可能

- ・中学生の通学はこれまでと変わらず、小学生の通学だけ検討すればよい。
- ・中1ギャップが解消されやすい。

【課題】

- ・八開地区検討協議会で検討が必要
- ・中学校の過小規模化が見込まれることは変わらないため、効果的な学びの展開の制限や生徒の社会的自立を促す機会の減少が懸念
- ・全学年1学級になると、9年間同じ環境で過ごすため、友人関係などが途中でこじれた際にリセットしにくい。
- ・小学校でのリーダーシップ、自信が身に付きにくい。
- ・転入や転校の際に、適応や対応が難しくなる可能性がある。
- ・小中一貫校を整備し、耐用年数経過を待たずに過小規模化した場合の対応